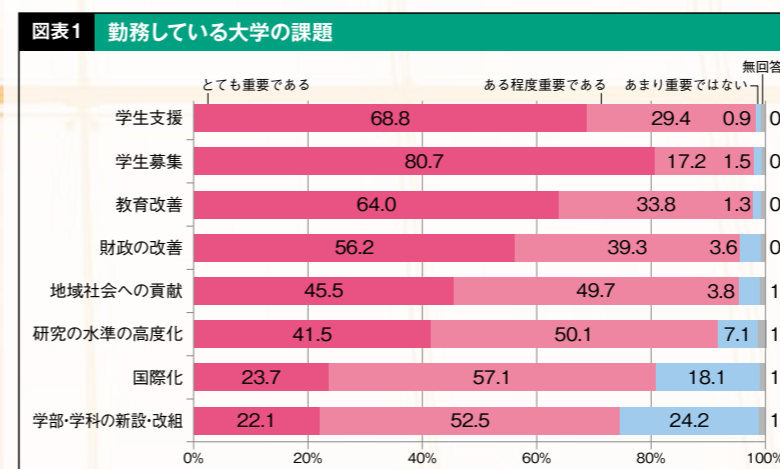


## 特集

# 職員が一翼を担う 教学マネジメント

教学マネジメントは教員が行うものという意識が教員、職員の双方に強く、職員はいまだにその領域に踏み込めていない大学が多いのが現状である。しかし、職員は、社会との窓口業務や学生とのコミュニケーションを通じて、社会が自学に求めていることや学生に対する理解度が高い。職員には高い専門性を身に付けたうえで、教員と協働し、教学マネジメントの一端を担うことによって、自学の教育目標に合った人材育成の実現に貢献できる可能性が広がっている。

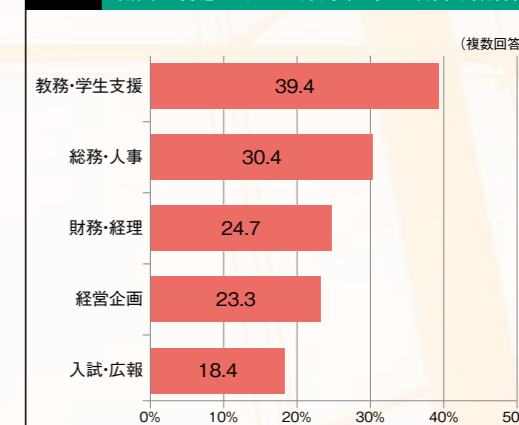
### 大学の課題や業務に対する職員の意識



重要度（「とても重要」と「ある程度重要」の合計）で見ると、最重要視しているのは「学生支援」（98.2%）。次いで「学生募集」（97.9%）、「教育改善」（97.8%）。自学への課題の一つとして、職員は教育の改革とそれに伴う学生支援の大切さを認識している。

出典／東京大学大学経営・政策研究センター「全国大学事務職員調査」（2010年2月実施 全国の国公立大学の事務職員対象 n=5909）

図表2 職員が得意にしたい分野（上位5項目を抜粋）



職員として自らが得意にしたい分野では「教務・学生支援」がトップとなっている。在学中に自学の学生を成長させることを職員のミッションと捉えている。

## 職員と教員が協働する教学マネジメント

- ▶ 職員の本領はマネジメント P.4
- ▶ 徹底したコミュニケーションによる教職協働 P.6
- ▶ 職員は学生の学習を促進する役割 P.9

## 教学マネジメントを担う職員の役割

- ▶ 教育理念、しくみを理解し、教室外での教育を担う P.12
- ▶ カリキュラム改革に携わるマネージング・スタッフ P.14
- ▶ 専門スタッフと協働し、教学改革を推進する P.16